

第3回神恵内村「対話の場」が、8月5日（木）に漁村センターで開催されました。
「対話の場」には18名中16名の委員に出席いただき、①委員から提案のあった会則の修正案及び質問事項の取扱い、②傍聴について、③文献調査の進捗状況の説明、④対話の場に期待することについて話し合われました。結果の概要は次のとおりです。

①会則修正案及び質問事項の取扱い

- 委員から提出された会則修正案について、運営委員会で検討され、その検討結果の報告があり「現行の会則で支障はない。現行会則は修正せず、今後、変更する必要があった際には、提出された修正案も参考にさせていただく。」との内容で、委員のみなさまのご了解をいただきました。
- 委員から書面でいただいた質問事項については、文書で回答いたしました。なお、技術的な質問事項は、今後の対話の場のテーマにあわせ、適宜、委員の皆様に説明することになりました。

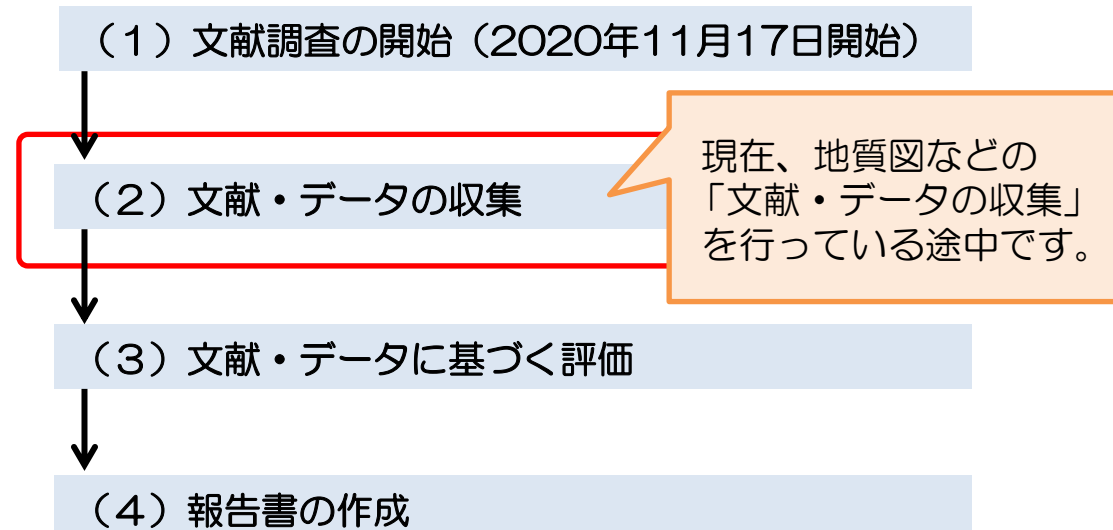
②傍聴について

- 今後、村民のみなさまに「対話の場」を傍聴していただけることになりました。
- 傍聴できるのは、神恵内村に住民登録している、高校生以上の方で、当面は10名程度としました。
- 傍聴のお申込み方法につきましては、第4回「対話の場」開催前に、みなさまにご案内いたします。

③文献調査の進捗状況の説明

- NUMOから文献調査の進捗状況についてご説明いただきましたが、次回の「対話の場」で、より詳しく丁寧に説明させていただくこととなりました。

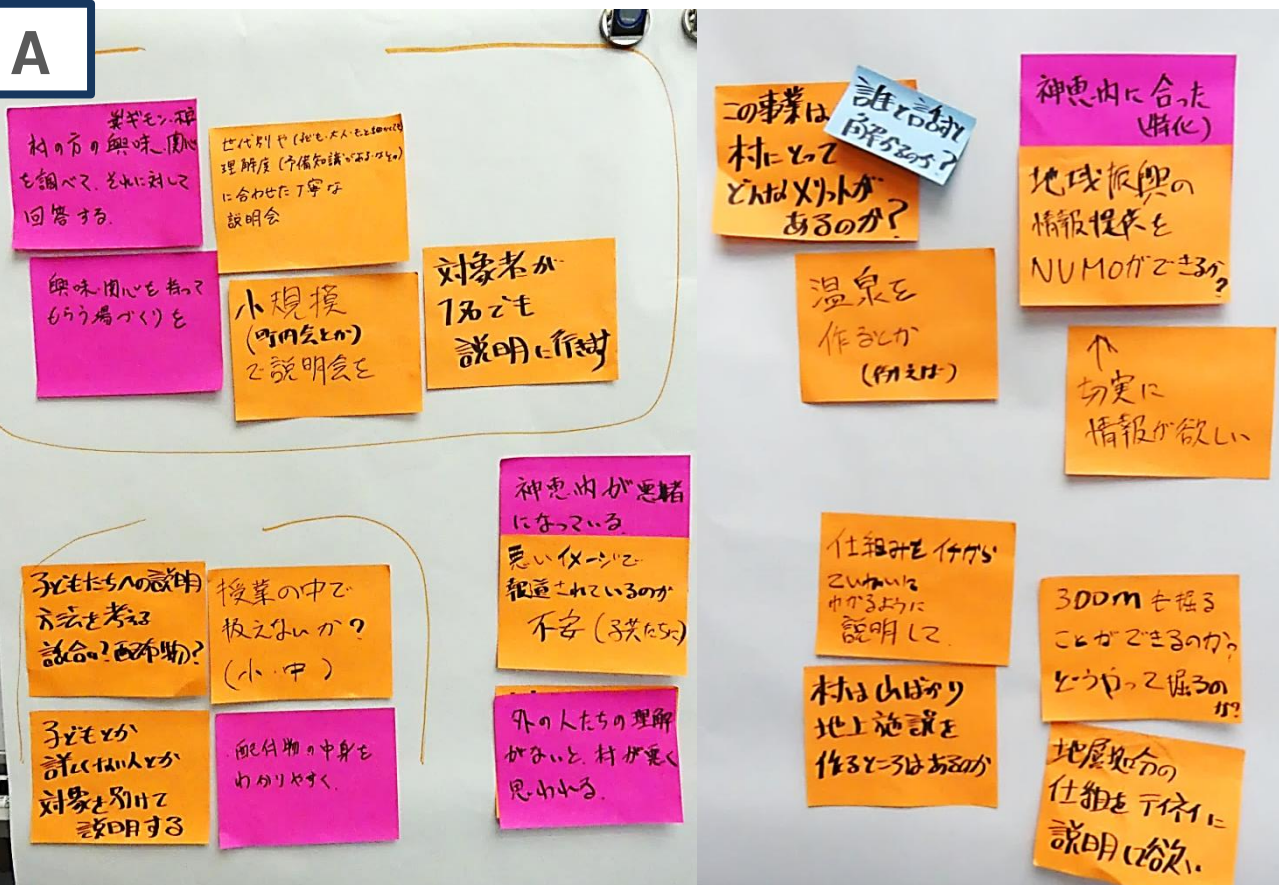
<文献調査の流れと進捗状況>



文献調査は、机上調査でボーリング等の現地調査は行いません。
また、文献調査をはじめ約20年程度の全調査期間中において、放射性廃棄物は一切持ち込みません。



A



【Aチーム】テーブルファシリテーターのまとめより抜粋

●説明の方法について

- ・村民の興味・関心・疑問・不安等をよく調べて、それに合わせた説明する場を作してほしい。
- ・小規模、町内会とか、対象者1名であっても、興味関心に沿った説明をするような場が欲しい。

●子供達への説明

- ・子供達に、この問題が分かりやすく説明することをして欲しい。
- ・小学校中学校、もしかすると低学年とか高学年っていう風に、細かく分けて説明していかなければ理解できないんじゃないか

●神恵内が悪者になっている

- ・神恵内が悪者になっている。周辺地域の方たちにもちゃんとした説明をしなきゃダメなんじゃないか。説明会であつたりとか配布物であつたりとか。

●地域振興について

- ・村にとってどんなメリットがあるのかという点について、しっかり説明する場が欲しい。
- ・地域振興の情報が少なすぎる。NUMOからも、この村であれば、こんな地域振興が可能があると情報を提供して欲しい。
- ・地域振興について、誰と話をするとこの話し合いができるのか。誰と話をすれば良いのかという点も含めて対話の場で扱えばいいのではないか。

●地層処分について

- ・地層処分の仕組みが何回聞いてもよく分からない。もっと分かりやすい説明資料を配布して欲しい。
- ・噛み砕いて分かりやすく丁寧に説明するような場をどんどん作って欲しい。

【Bチーム】テーブルファシリテーターのまとめより抜粋

●どのようなテーマを、誰がいる場で、どんな場を作って、どんな形にするかを中心に話し合い。

- ・知らないことが一杯あるので、そのテーマについて教えて頂きながら、一方的に聞くだけではなく、質疑や話し合いができる場が欲しい。

(例) 高レベル放射性廃棄物に関する具体的な内容。危険性を分かりやすく動画で。処分場を埋めた後、管理はどうなるのか、土砂はどうするのか。世代間倫理の話ができる場、放射線の専門家が専門的に話し合いをする場子育て世代と話し合う場、福島の実例について話せる人・ベラルーシについて教えてくれる人がいる場

- ・賛成派と反対派が議論して欲しい。
聞いても難しくて分からないかもしれないが、そういう場で聞くということが大切。その際は、分かりやすく、資料を作って欲しい。

(例) 活断層、原発、処分場、地震について、双方の話が聞きたい。

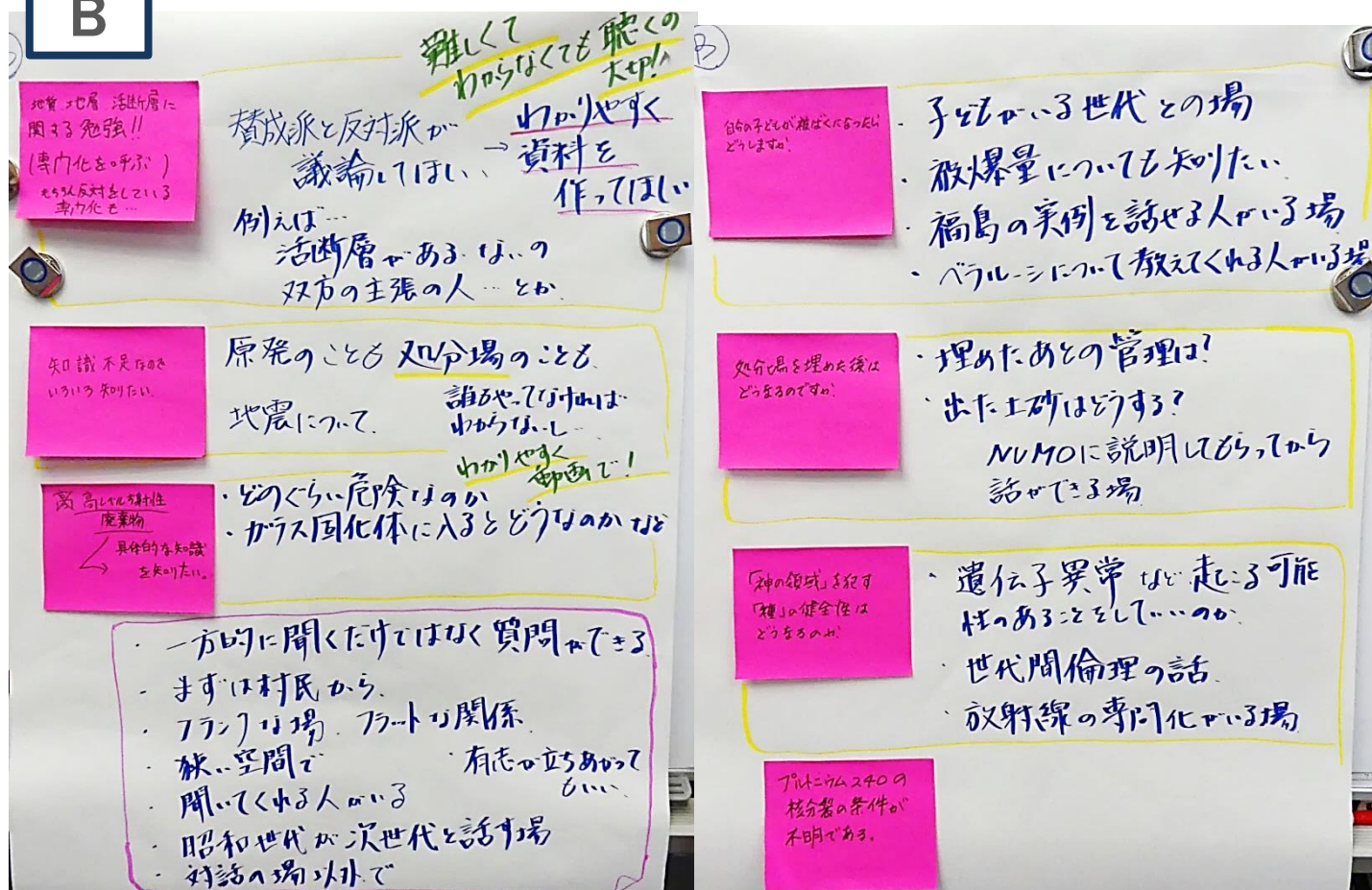
- ・昭和世代が次世代と話す場。
昭和世代が「自分達が原発を誘致したから」という事を背負っている方々がたくさんいる。その方々が次世代と対話する場があってもいい。

- ・対話の場以外の、例えば、有志が立ち上がって上記のような場を作ってもいい。

●どの場にも共通すること

- ・一方的に聞くだけではなく、質問ができる場。フランクでフラットな関係が作れる場、しっかり聞いてくれる人がいる場。
- ・大きな会場ではなく、狭い空間で、まずは村民の方達に聞いて欲しい。

B



どのようなことをしたい

C

住民の不安
不信感
の解消

会で話し合ったこと
フィードバック
伝えていく仕組み
村民に

文庫調査の
定期的な報告
(村議会場だけでなく
村民全体に)

次に進む前に
村民全体で
話し合う
機会を

ビール
食みたい

2021.8.5

これをやってほしい
肌分は村会委員
にしほり 若くして
仕組むが必否

地元でやるべく
あや国も一緒に
話し合うべき。

国のエネルギー政策を議論
しかりがかわり欲しい
(ちゃんと考え!!)
国もテーブルに入っ!!

国とエネルギーか
どんな話をしているのか、
知りたい

温暖化の方が
心配……
(鳥が獲れなくなる)

この問題は
もっと丁寧
に考えていかないとダメだよ。

2021.8.9

原発の立地の問題
ではなく
「安全が電気を使っているから」
国民が関心を持つのは当然

平和な地域が重要になる

全国的な説明会
「安全がなし」
もっと国と町で
取り組むのでは!?

矢野と市町村長が
一緒に話し合おうかな?!

今お集まりで話に違ひがある?
国に連絡があるのか、議員
村町と判断において……!

村が 自分たちがここに
なってきたわけ
歴史を下へ 話し合い
かんがえよう

2020年の報告が
かたまっていて
(点検やメンテナンス)
一緒に取り組もう
よ!

対話の場がなくなって
村民全体に

根底に不信感

議会と市長が
勝手に決めた
受け入れ後に報告

村の規模が小さい
原発で働いている
「反対」の声が上にはい
水自身が賛成反対が別

20億 → 10億 / 1年
↑
地元の収入が減る
生活費を
上げる
税率は5%しか
上がらない

お金を借りて
手続めんどろ。
これ 借りがすく!!

今年もいろいろ
がんばろう。

選挙の時とか
おもしろい。

選挙の時とか
おもしろい。

選挙の時とか
おもしろい。

【Cチーム】テーブルファシリテーターのまとめより抜粋

- 「気持ち」と、「その後どんなことをしたいか」について話し合い。
- 住民の不安・不信感の解消
 - 根底に「議会と村長が勝手に決めたんじゃないか」「受け入れが始まった後に報告された」という不信感があり、むしろ最近になって文献調査について話しづらい空気になってきた。
 - 住民の不安とか不信感を解消するためには、対話の場で話し合ったことを村民に伝えていく仕組みを作らなければいけない。
 - 文献調査の進捗の報告は、定期的に、対話の場だけではなく、村民全体に報告していく。文献調査が終わり、次に進むかどうか判断する前には、村民全体で話し合えるような機会を作してほしい。
- 国民的な理解が必要
 - そもそも誰が電気を使っているのかというところから地層処分を考えなければいけない。電気を使っておいて処分反対だけというのは無責任。全国民が関心を持たなければいけないはずなのに話なのに、手を挙げた地域だけが悪者になっている。
 - 全国的な説明会の、効果がないんじゃないか？もっと国を挙げて取り組むべき。国のエネルギー政策なのだから、国がしっかり関わり、エネ庁も同じテーブルに入り話し合ってもらいたい。地元だけで話し合うのではなく、道や国も一緒に話し合う。知事と市長村長と一緒に話し合わなければいけない。
 - 今の仕組みのまま先に進めても「文献調査が終わりました。でも道が反対したからナシです」となってしまう。何のために村を二分するような空気を作ってまでやっているのか。先に進むのか分からないような状態のままでいることにすごく疑問になる。村を二分するような状況になってしまっているのに、国の本気さが分からない。
 - マスコミの報道も非常に偏っている。中立的な情報発信を国とか道とかマスメディアと一緒に取り組んでほしい。

●国民的な理解が必要

【Dチーム】テーブルファシリテーターのまとめより抜粋

- 科学技術に関して
 - ・ 難しくて分からない。何を聞いたらいいのかも分からない。だから突っ込んだ質問もできない、難しい。
 - ・ 埋めることができるのかという判断は、専門家をお願いするということでもいい。
- この村をどうしていくのか
 - ・ 人口が減っていく、もう猶予がない。処分が完了するまで100年かかるが、その100年後に、果たして神恵内はあるのだろうか。村の名前を残したい。村はどう残っていくのか
 - ・ 村を残すのか、または閉じていくのか、いずれにしてもこの村をどうしていくのかというところを話していきたい。今回の地層処分事業も含めたうえで、私たちはどういう選択をとっていくのか、ということと話していきたい
- 技術進歩
 - ・ 100年間の中で、また新しい技術も生まれるかもしれないから、そこは止めないでほしい。
- 原子力立地地域として
 - ・ 隣に泊原発があり、常に泊原発ありきで過ごしてきたため、ある意味、原子力に馴染みがある。恩恵を受けてきたというのがある中で、どこか他のところで処分というより、私たちは隣で受けてきたということを考えるところもある。
- 風評被害
 - ・ 「風評被害が起きる」と騒ぐ人のせいで、風評被害になる。
- 対話の場
 - ・ 賛成の人も、反対の人も、中立の人もいる、それぞれの人がいるということが大事。

●この村をどうしていくのか

●技術進歩

●原子力立地地域として

●風評被害

●対話の場

D

まだ穴も振ってない
風評被害が出る!
とこわく人のせいだ
風評被害!

産業のつとめ

人口ふやすには
産業誘致
しかない

人呼ばない
商業も旅館も
成り立たない

村を残す
(人口減をくいとめる)
選択肢としてはあり
調査うけられ、産業の

この村を
どうにかな
話したい

泊 (神恵内)

避難訓練
覚悟がな
くらひきた
(地震は分けては前)

泊原が
隣にあると

原が隣の村
にあると
皆どう思っ
ていたのか

ある意味
原が隣の村に
ある
「核のゴミ」→今更
えに

うで
うろってきた
現実

わかんない
質問が
できない

科学技術に
関しては
専門家
調査にたか2水

100年の
変遷
まちの
歩み

1921 → 2021
100年間の
変化・進歩
100年経たない
他の処分技術の
周知
あきまてはくれない
処分場建設の
100年後には
他の処分法
でいいのか?

調査終わった
主
もつくるん
と
...と
思ってる人
たくさんいる

「神恵内」
の名前 残したい!

村は
残るのか?

村には
「描子」がない

人口(減)

人口減
1年30人、10年300人
900 → 870 → 600 (10年)
→ 300 (20年)

~100年
みん
な
いなくある